

## 8. 河道特性

### 8.1 上流部（源流～姫2堰堤）

姫川上流部は、比較的河床勾配が緩くなっており、松川、平川といった土砂流出が極めて多い支川が流入する。河床勾配は1/130程度である。



姫川源流



松川下流（白馬大橋）

### 8.2 中流部（姫2堰堤～小滝川合流）

中流部は、山間部の渓谷であり、浦川等の土砂流出が極めて多い支川が流入する。平成7年7月洪水では、甚大な被害を被った区間である。また、高度に水利用が発達し、発電取水施設が点在する。

河床勾配は、1/60程度ととっても急勾配な区間である。



姫川（土谷川との合流部下流）



JR大糸線被災状況（糸魚川市平岩地先）

### 8.3 下流部（小滝川合流～河口）

下流部は、小滝川が合流したあと徐々に川幅を広げ、山本付近から下流で扇状地を流下する。山本より上流では、主に単列砂州、下流では網状砂州を形成し、ともに砂州の移動の激しい区間である。

河床勾配は1/110程度、主な河床材料は80mm程度となっている。



姫川河口より上流を望む



8k 付近の網状砂州

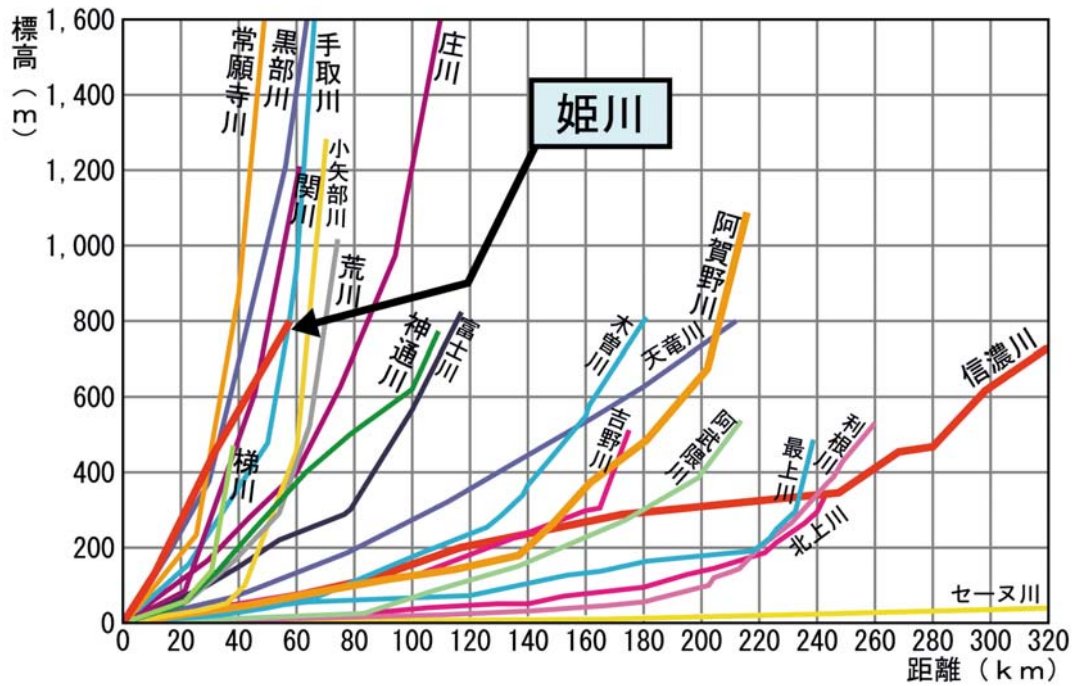


図 8-1 河川勾配の比較

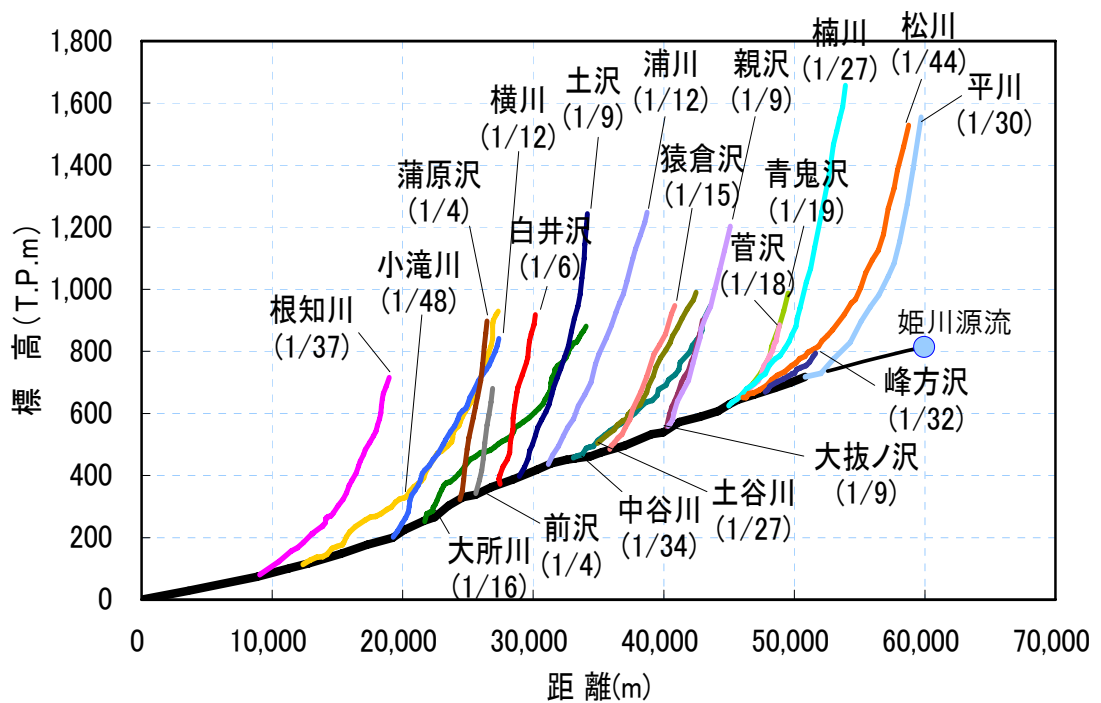


図 8-2 姫川縦断面図